

様式（第8条関係）

政務活動費に係る収入及び支出の報告書

令和5年8月9日

角田市議会議長

殿

会派名

会派一心

代表者

菊地利衛

角田市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、令和5年度政務活動費に係る収入及び支出について下記のとおり報告します。

記

- 1 収入 政務活動費 120,000 円
2 支出

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費	48,699	
研修費	0	
広報費	23,952	
公聴費	0	
要請・陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	0	
人件費	0	
事務所費	0	
合計	72,651	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 残額 47,279 円

4 経理責任者

星 隆 悦



支 出 伝 票

	整理番号 /			
会派名	会 派 一 心			
支出項目	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 広報費 <input type="checkbox"/> 公聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/> 会議費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 事務所費			
実施年月日	令和5年4月21日	支出年月日	令和5年4月20日 21	
支出金額	78,699 円	按分率	100 / 100	按分後の額 78,699 円
支出先	ヤシ商事 他5カ所			
使途内容	調査研究費(視察)			
備考	レンタカー借上料 13,750円、ガソリン代 9,399円、 有料道路通行料 10,830円、食事代 5,000円、土産代 9,720円			
領収書添付欄	別紙			

※領収書は重ならないように添付してください。領収書添付欄が足りない場合は、裏面を使用してください。

様式第3号(裏面)

領収書添付用紙

別紙

※領収書は重ならないように添付してください。

領収証

No. 048509

令和
~~平成~~

5年4月21日

会派一心殿

領収金額	百万	千	円
	7	1,575	0

但し

油代

その他

にわか-オイル

印

紙

取扱者印

司理

上記金額正に

領収致しました。

やしろ商事株式会社

角田給油所 角田市角田字旭町32-4
電話 (63) 3811 (代表)

170316501

ENEOS

納品書(領収書)

2023年04月21日 19:52

売上
ケンカイン(カドワ) 様
04134-011309-854
ENEOS CASH J
車両番号 1 実車番 1
2000-00
ENEOSレギュラー P-05
39.50L *
162円 ¥6,399
合計 ¥6,399
(消費税10%対象 ¥6,399
内消費税等 ¥582)

現金でお買上げの場合は領収書にかえさせていただきます。
やしろ商事 株式会社 角田SS
宮城県 角田市角田字旭町32-4
TEL:0224-63-1311 SS-004134
サイトNo 3008-01 データNo3932-3934
001目黒 良一 2023/04/21

JA/SS

領収書

売上
JAやさと
JASS-PORTやさとSS
茨城県石岡市上林414
TEL:0299-44-1288 SS:3055605252
2023/04/21(金)16:24
上 様
30-556-052-009999990-000-01
現金フリー 手
区分 10 P-12
No.2758
レギュラーガソリン
18.75L/l @160.0 ¥3000

合計 ¥3,000
(内消費税等 ¥272)
お預り ¥3,000
お釣り ¥0

係員:0

サイトNo.1330 01

ご利用ありがとうございます。



料金所では一旦停車してください。

領収書

料金所 千代田石岡

NEXCO東日本お客さまセンター
0570-024-024
または
03-5308-2424

23年 4月21日 9時30分

車種 普通

通行料金 ¥5,550-

(現金)

-入口料金所- 山元

高速道路上で停止車両を見聞きした際は、
停止車両や人に注意しながら安全走行を!

東日本高速道路株式会社

東京都千代田区霞が関3-3-2

取扱番号206-00180605-00

ご利用ありがとうございます。



料金所では一旦停車してください。

領収書

料金所 山元

NEXCO東日本お客さまセンター
0570-024-024
または
03-5308-2424

23年 4月21日 19時31分

車種 普通

通行料金 ¥5,280-

(現金)

-入口料金所- 岩間

ETCなら小銭不要。各種割引もあります。
便利でお得なETCをぜひご利用下さい。

東日本高速道路株式会社

東京都千代田区霞が関3-3-2

取扱番号212-00321701-00

2023年 4月21日(金)

領 収 証

会派一心様

¥6,370-

預/現計 ¥6,370
(消費税等 5名分)

但し、やさと温泉 ゆりの郷
茨城県石岡市小幡1416
TEL 0299-42-4126

と、円に含みます)

食事代(講師名会派5名分)

担当者

青木

* 財布等で保管戴く場合、印紙面で内側に折って保管願います。

0001-3711

上限が1人1食1000円分の2: 1000円 x 5人 = 5000円が税

2023年04月20日

領 収 書

領収No. 000001

会派一心様

¥9,720-

外税対象※ 8.0%
外税※

¥9,000-
¥720-

(但しお品代として、正に領収致しました)
印刷面を内側に折って保管願います 印

お菓子の ささもり

有限会社 ささもり菓子舗
宮城県角田市角田字町175
☎0224-62-1018

~~研修講師謝礼~~

視察訪問時土産代(視察先3箇所分)

様式第8号(第7条第1項第1号ア及び同項第2号イ関係)

市政に関する調査研究に資するために要した経費記録簿(兼)

政 務 活 動 費 活 動 記 録 簿

令和5年4月21日

角田市議会議長

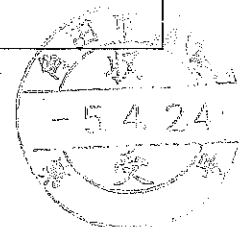
殿

会派名 会派 一心
代表者 菊地利衛
(又は代表議員名)

下記のとおり実施したので報告します。

出張期間	令和5年4月21日(金)~令和5年4月21日(金)
場所	茨城県石岡市
相手方	①石岡市朝日里山ファーム ②生産者農家 ②やまと農業協同組合
出張者名	菊地利衛 星隆境 戸村真吾夫 小塚毅
出張の目的 (○を記入)	研究会・研修会・講演会・会議 調査 <input checked="" type="checkbox"/> 視察 <input type="checkbox"/> 広報・公聴 その他()
概要・結果等	別紙

※記入する欄が足りない場合は、別途報告資料を添付してください。



会派一心先進地視察研修

1.研修日 令和5年4月21日(金)

2.視察場所 ①「石岡市朝日里山ファーム」茨城県石岡市柴内631番地1

②日帰り温泉「ゆりの郷」JA やさと経営(石岡市指定管理者)

③生産者現地視察(米・野菜の有機栽培農家)

3.参加者 会派一心 4名

4.目的 石岡市朝日里山ファーム条例を制定し、廃校となった小学校を利用して新規就農者支援や農産加工による商品開発、農業体験を通じた食農教育の実施等で有機農業等の持続的発展を目指している。角田市として、有機農業を含めた資源循環型農業を推進する参考にしたい。

5.日程 令和5年4月21日(金)

① 10時～12時 朝日里山ファーム(石岡市研修農場)

12時～13時30分 昼食 日帰り温泉「ゆりの郷」(直売所併設)

② 14時～16時 JA やさと有機部会等の現地視察

③

生産者農家

6.視察対応先

朝日里山ファーム 担当 柴山 進

茨城県石岡市柴内631番地1

TEL 0299-51-3117 FAX 0299-51-1038

体験型観光施設
「朝日里山学校」指定管理者



NPO法人 アグリやさと

代表

柴山 進

〒315-0143

茨城県石岡市柴内630番地
(朝日里山学校内)

TEL 0299-51-3117

FAX 0299-51-1038

<http://ishioka-kankou.com/asahi-satoyama/>

E-mail:satoyama@ishioka-kankou.com

具体的研修内容

(1) 朝日里山ファーム

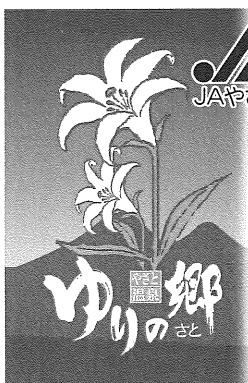
- ・ 設立に至った経緯（条例制定も含む）
- ・ 新規就農者制度と実績
- ・ 農産加工の現状
- ・ 農業体験ツアーの実績と食農教育効果について
- ・ JA や関係機関との連携について
- ・ 石岡市としての有機農業等への方針
- ・ 今後の課題

(2) 日帰り温泉「ゆりの郷」

- ・ 今までの実績（直売・食堂・温泉など）
- ・ 今後の課題

(3) 現地視察 *生産者農家*

- ・ 有機栽培の現状と課題 野菜と米（生産・販売・経営）
- ・ 今後の展望と行政への要望



やさと農業協同組合
JA やさと

営農流通部 農政企画課
課長

河合 健次

営農流通センター

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1

TEL 0299(44)1661

FAX 0299(44)1923

E-mail jayasato-einou@lime.ocn.ne.jp

HP <http://ja-yasato.com/>



やさと農業協同組合
JA やさと

営農流通部 農政企画課

水野 五月

営農流通センター

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1

TEL 0299(44)1661

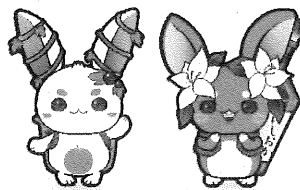
FAX 0299(44)1923

E-mail jayasato.mizuno@gmail.com

HP <http://ja-yasato.com/>

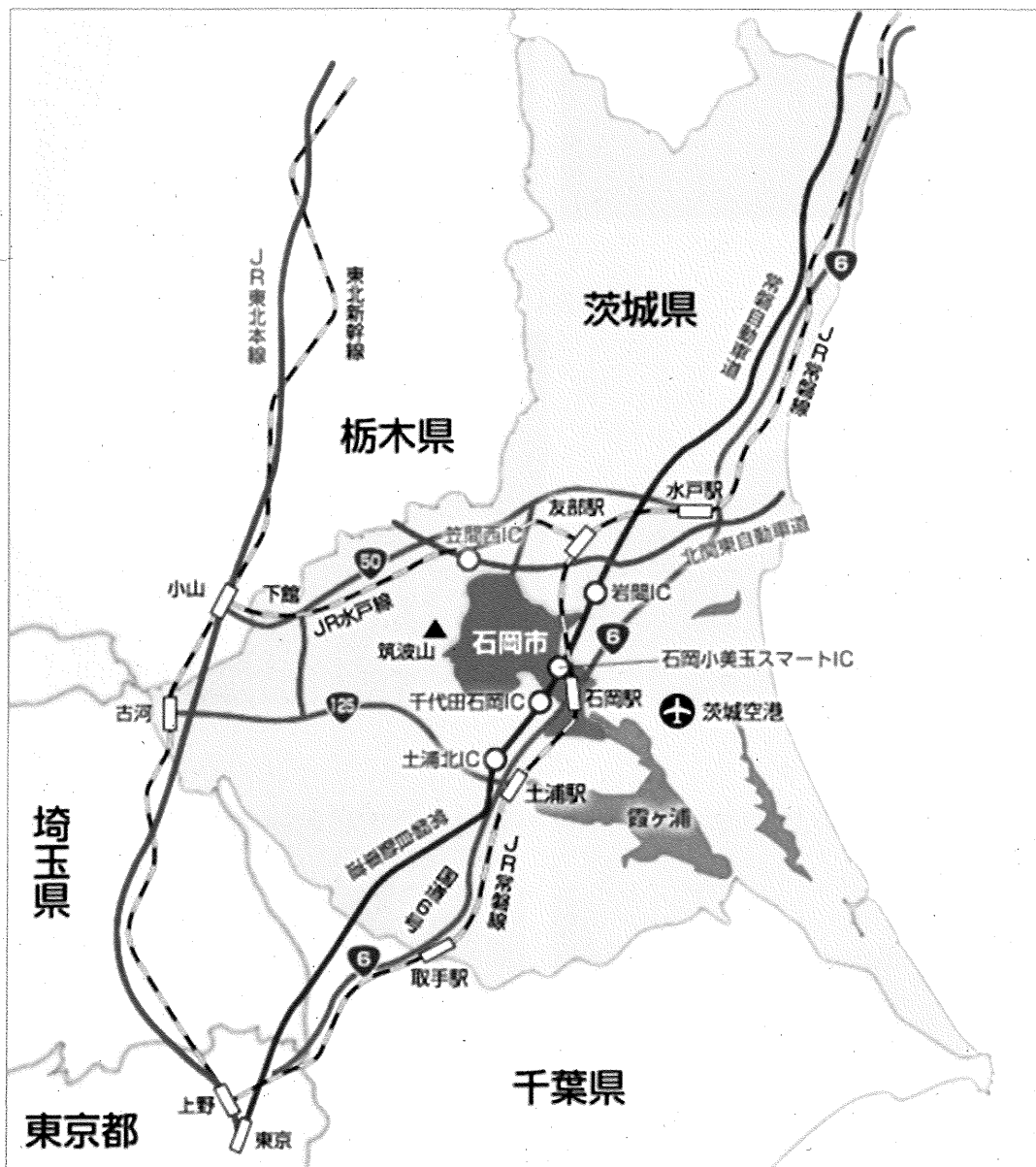
石岡市の概要

- ・面積：215.53km²
- ・人口：71,524人（令和5年4月1日現在）
- ・世帯数：31,780世帯（ ” ）



・平成17年10月1日に、旧石岡市と旧八郷町が合併し「石岡市」となる。

・茨城県のほぼ中央に位置し、東京から70km圏内にある。北西部は筑波山系の山々が広がり、北部から東南端へ流れる恋瀬川は、日本第2位の面積を持つ霞ヶ浦へ注いでいる。



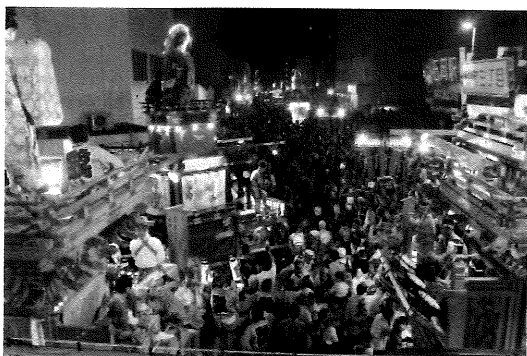
観光資源

・石岡のおまつり（常陸國總社宮例大祭）

毎年9月の敬老の日を最終日とする3日間で開催。

「関東三大祭」の一つと言われており、吉家門を許された格式ある大神輿をはじめとして、絢爛豪華な山車や勇壮な幌獅子など40数台が市中心部を巡行する。

3日間で約40万人の見物客が訪れる。



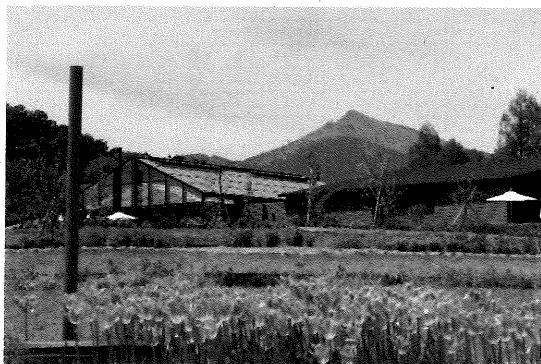
・レトロな街並み



・スカイスポーツ



・茨城県フラワーパーク



・果樹狩り

筑波山ろくの温暖な気候に恵まれた八郷地区では、筑波山系の豊かな水と温暖な気候があいまって、年間を通じて様々な種類の果樹狩りが楽しめる。

イチゴ：1月～5月

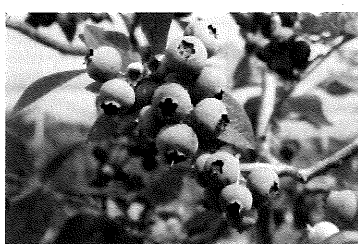
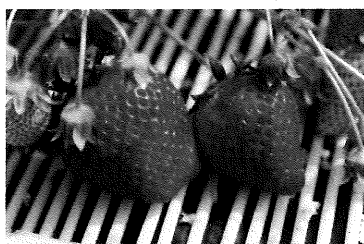
ブルーベリー：6月中旬～8月中旬

ブドウ：7月中旬～10月中旬

リンゴ：9月中旬～11月

カキ：9月中旬～11月

ミカン：10月中旬～11月

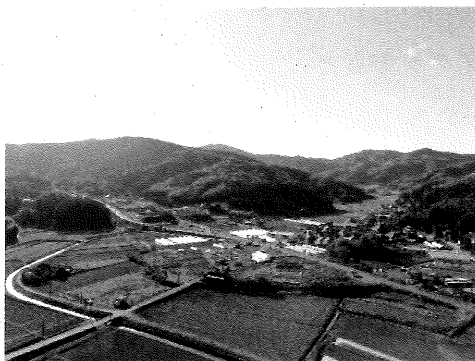


石岡市の農業

・肥沃な水田地帯と温暖な気候，東京都心から約70kmという優位性を生かしながら，米，野菜，果樹，畜産など幅広く生産されている。

・石岡地区では，きゅうりを始めとした施設野菜，小菊などの露地花き類，れんこんなどの湛水性野菜の生産が盛んに行われている。

・八郷地区では，山岳地帯という地理的条件を生かした柿や梨などの果樹類の生産や有機農業の取り組みが盛んであり，首都圏でも高い評価を得ている。



朝日里山学校について

・概要

主な施設：事務室

体験教室1 定員10名

体験教室2 定員30名

体験教室3 定員25名

多目的ホール 定員50名

食堂 定員36名

調理室 定員24名

更衣室

カマヤ ピザ焼きで使用，ピザ焼き釜を設置してある。

トイレ

・沿革

昭和30年 : 小桜第二小学校として現在地に新築移転

平成16年3月 : 児童数の減少により閉校

平成18年 : 旧朝日小の利活用について政策調整会議や公共施設等利活用調査委員会で検討。

グリーンツーリズムの拠点として整備することを決定。

平成19年～平成20年：改修工事を実施

工事内容：トイレ，調理室，カマヤ，外壁改修，電気，空調

平成20年11月24日：朝日里山学校 開校セレモニ

・運営形態

指定管理 指定管理者：NPO法人アグリやさと

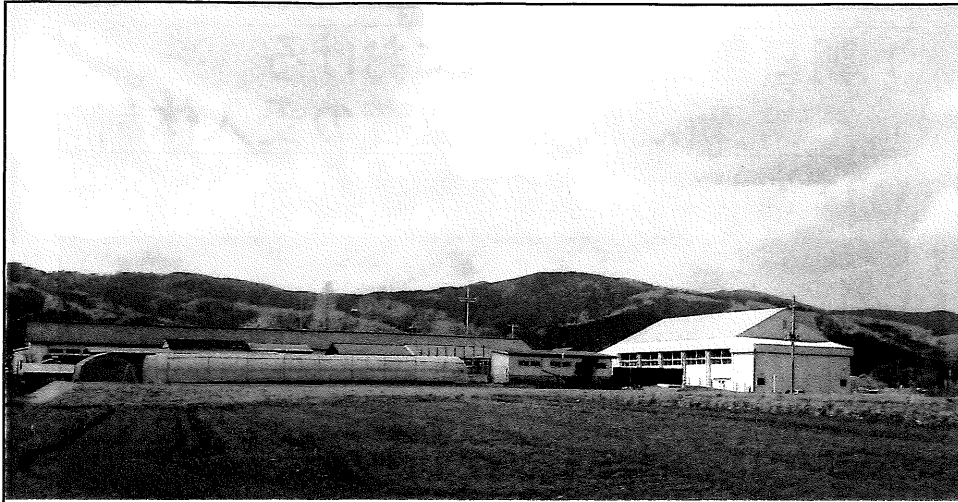
令和4年度農林業体験受入実績

月日	曜	受入先	内容	人数	地元
4月 3日	日	東都生協	稲づくり畦直し	11	3
4月23日	土	よつ葉生協	野菜苗植え付け、種まき	10	8
4月26~27日	火水	富士見ヶ丘中学校	飯盒炊飯、林業、なわなえ	94	24
4月28日	木	阿佐ヶ谷中学校	田植え	81	3
5月9~10日	月火	和田中学校	林業、飯盒炊飯、田植え	84	13
5月11日	水	神明中学校	林業	92	14
5月12日	木	高井戸中学校	飯盒炊飯、なわなえ	162	5
5月15日	日	東都生協	田植え	99	3
5月16日	月	都和南小学校	玉ねぎ収穫	46	1
5月19~20日	木金	松ノ木中学校	田植え、飯盒炊飯、林業	92	19
5月27日	金	(株)千田みつほ	田植え	6	4
5月29日	日	東都生協	稲草取り、玉ねぎ収穫	73	3
6月 3日	金	よつ葉生協	野菜の管理作業	10	9
6月 4日	土	金ヶ作中学校	林業	53	8
6月12日	日	東都生協	稲草取り	67	4
6月25日	土	東都生協	稲草取り、ジャガイモ収穫	51	3
6月26日	日	青空保育園	ジャガイモ収穫	53	2
7月 6日	火	石岡二高	ジャガイモ収穫、ピザ、BBQ外	192	1
7月17日	土	よつ葉生協	野菜の収穫	30	9
7月23日	土	清新第二中学校	飯盒炊飯、野菜収穫	104	1
7月24日	日	東都生協	稲草取り、トウモロコシ収穫	57	4
7月30日	土	新宿教育委員会	野菜収穫	49	1
9月8~9日	木金	明海中学校	稲刈り、飯盒炊飯、林業	93	18
9月18日	日	東都生協	稲刈り	85	4
9月27日	火	高洲中学校	稲刈り	177	7
10月 1日	土	東都生協	稲脱穀	14	5
10月4回実施		農協観光ドライブツアー	サツマイモ収穫、BBQ、ピザ	163	1
10月19日	水	吾妻小学校	サツマイモ収穫	118	2
10月23日	日	東都生協	稲収穫祭、野菜収穫	87	8
10月27日	木	乙戸小学校	サツマイモ収穫	59	2
10月29日	土	新宿教育委員会	サツマイモ収穫、BBQ	37	1
10月29日	土	石岡市サケツギ大会	サツマイモ収穫	20	1
10月29日	土	日東観光（虹の会）	サツマイモ収穫	27	1
10月31日	月	ドングリ保育園	サツマイモ収穫	42	1
11月11日	金	八條中学校	飯盒炊飯、野菜収穫	34	1
11月18日	金	日東観光	サツマイモ収穫	39	1
11月25日	金	日東観光	サツマイモ収穫	30	1
11月29日	火	いばらきコープ	野菜収穫	13	1
12月 3日	土	東都生協	稲堆肥散布	6	2
2月18日	土	東都生協	野菜収穫、ピザ	16	4
3月 3日	金	市商工観光課募集	野菜収穫、バイキング	22	1
合 計				2,602	204

※中学校の飯盒炊飯時は、野菜収穫して調理を行いました。

朝日里山学校スタッフの対応人数は、地元に入っていません。

ジャガイモやサツマイモ収穫には、家族の収穫体験が別途ありました。



石岡市朝日里山ファームにおける
就農支援体制と取り組み
NPO法人アグリやさと 柴山 進

1

1.朝日里山ファームにおける
新規就農希望者の受入体制

(1)石岡市が研修農場を整備

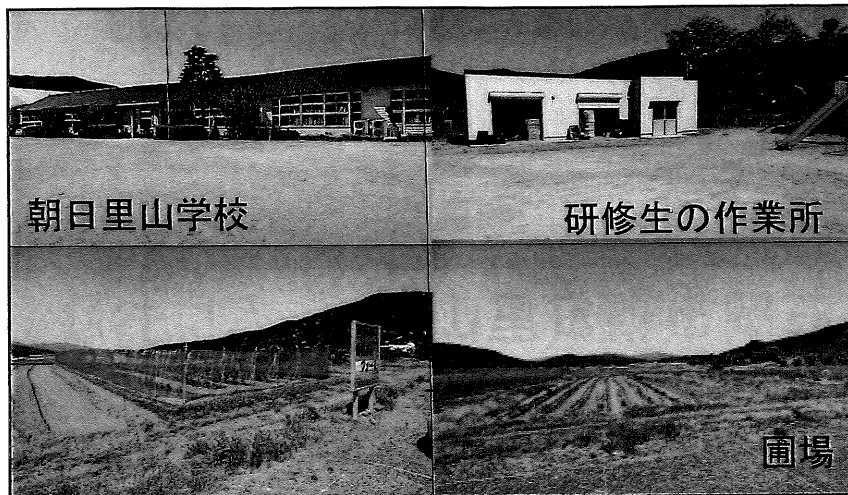
- 平成29年開設
- 目的「農業により移住者を増やす」
- 1.4haの遊休農地を開墾し、研修農場として整備
- 研修生の作業所を建設、2研修生分2部屋
- 28馬力のトラクターを購入
- その後、研修農場圃場を60a拡大

モデルは ゆめファームやさと

2

1.朝日里山ファームにおける 新規就農希望者の受入体制

(1)石岡市が研修農場を整備



3

1.朝日里山ファームにおける 新規就農希望者の受入体制

(2)NPO法人アグリやさと

- ・ 市から研修農場の管理運営を業務受託
- ・ 研修農場で整備した施設・機械等
 - ①ビニールハウス2棟
 - ②ハウス倉庫1棟
 - ③トンネル等農業資材
 - ④トラクター(25馬力)
 - ⑤管理機
 - ⑥刈払機2台
 - ⑦草刈機
 - ⑧作業所備品など

①②③は県事業を活用

4

1.朝日里山ファームにおける 新規就農希望者の受入体制

(2)NPO法人アグリやさとで準備した施設等



5

1.朝日里山ファームにおける 新規就農希望者の受入体制

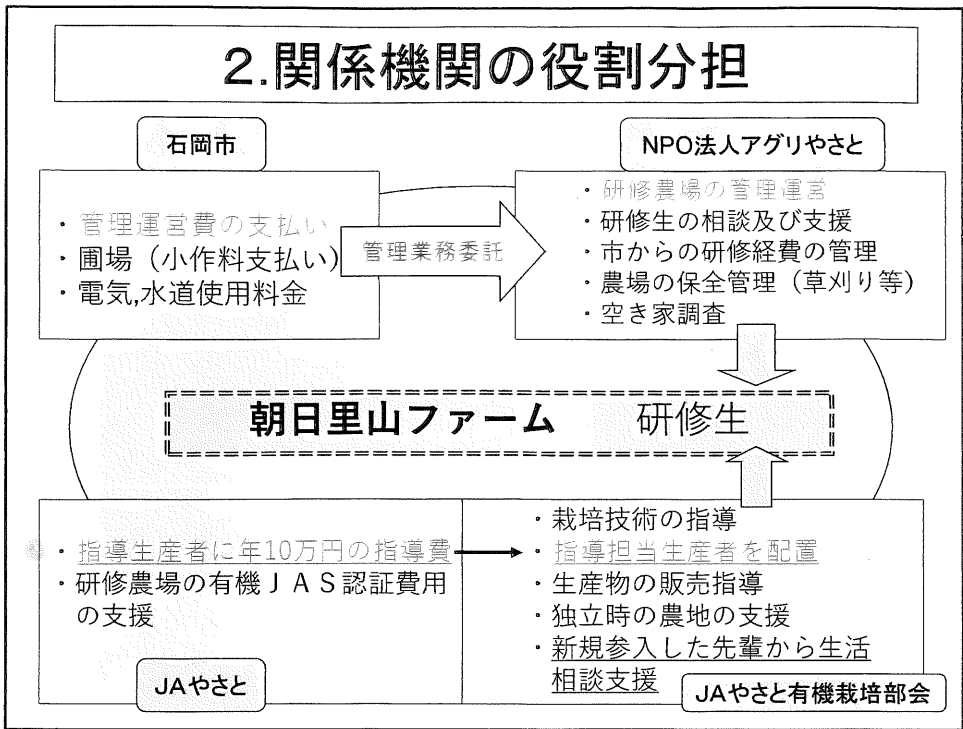
(3)研修生の受入

- 1年間に1家族 2年間の研修を実施
- 年齢は45歳まで(どちらか一方でも可)
- 次世代人材投資資金(準備型)を活用
- 平成31年3月, 最初の研修生が独立
- 研修は有機栽培で実施

研修農場は有機JASの認定圃場

※研修開始時から, JAやさと有機栽培部会員に
なることが条件

6



7

2.関係機関の役割分担

○法人アグリやさとの役割

**第5期生の渡邊さん
研修生の相談・支援**

農場の管理

空き家調査など

8

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(1)就農希望者との出会いから研修開始まで

- ①就農相談会に出展
- ②現地の農家で農業体験を実施してもらう
- ③複数の新規就農者と意見交換の場をつくる
- ④「自分だったらどうか」という就農ビジョンを作成してもらう

9

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(1)就農希望者との出会いから研修開始まで

- ⑤研修生の就農意志が固まり、研修生としての見極めが出来たら内定段階
- ⑥石岡市研修生受講認定検討委員会で研修生として承認・決定
- ⑦野菜の苗づくりからスタート 研修開始！！

10

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(2)研修の実際(研修1年目)

- ①指導担当生産者を決定(JAやさと有機栽培部会役員会)
- ②指導担当生産者の指導を受け,研修生自身で生産計画を作成してもらう(主体性をもたせる)
- ③計画に基づき,実際に野菜生産開始
※圃場は朝日里山ファームで準備
- ④毎週木曜日は,指導担当生産者の圃場で栽培技術などを習得

11

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(3)研修の実際(研修2年目)

- ①1年目の学びから自分に合った作物を選定
- ②農地を借りる段取りをはじめ
- ③借りた圃場に堆肥を投入して独立に備える
- ④研修と同時に,農地や住居を準備
※研修生がもっとも忙しい時期
- ⑤次の研修生のため,作業室と圃場履歴等を次の研修生に渡す

12

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(4)研修の充実

- ・研修生から研修期間中, 月1万円を徴収
2名で年間24万円の資金を確保
- ・研修に必要な農機具等を購入し, 研修農場を充実
- ・購入した農機具
 - 培土機(28万円)
 - 大根洗い機(13万円)
 - 管理機(27万円)

13

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(4)独立した研修生たち

朝日里山ファーム 第1期生



- ・建設コンサルタントから
転身
- ・大阪府和泉佐野市から
家族で移住
- ・90a農地で経営開始
現在は3ha以上

不安はあるが, 知識と人脈を築きながら一歩ずつ進んでいきたい!

14

3.就農相談から独立就農までの 行程と支援

(4)独立した研修生たち(ゆめファームやさと)

- 独立時の耕作面積80a~1ha→数年後1.5ha~2ha
- 独立時の家は, 1戸建ての農家を借りる人, 家を新築する人と様々
- 年代は, 20代後半から30代が中心
- JAやさと有機栽培部会員(31名)のうち5分の4が新規就農者→更に高くなっている

33%

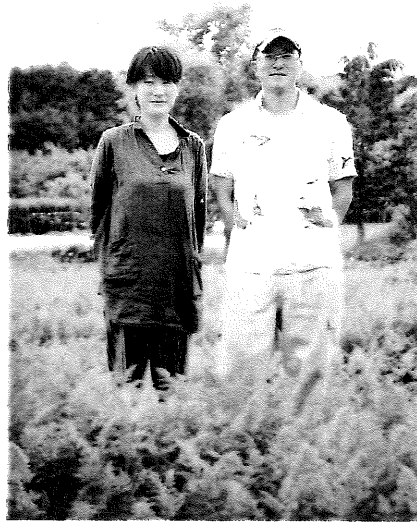
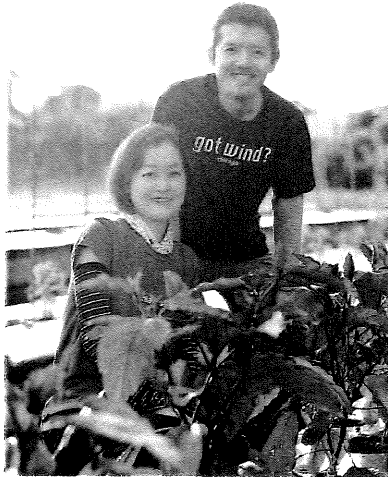
15

独立した研修生たち



16

独立した研修生たち



17

独立した研修生たち



18

4.就農支援の課題, 各地域への提案

(1)独立時の住居が一番の課題

・借入する圃場の地域と住まいのマッチング

(2)各地域への提案

J Aが有機栽培部会をつくったら 新規就農者が続々と

茨城県石岡市・元J Aやさと 柴山 進

茨城県石岡市八郷地区やさと（旧八郷町）では、野菜や果物、酪農・養豚・養鶏など少量多品目の複合経営が行なわれてきました。その八郷地区で事業展開しているやさと農業協同組合（以下J Aやさと）の有機農業の取組みのはじまりは1997年、東京の生協との産直のかかりからです。生協産直は1976年にタマゴの産直からスタートしました。まだ生協産直という言葉も一般化していない時代でした。鶏肉産直を経て野菜の産直開始は1986年で、その後果物・豚肉・米・納豆の取引きに拡大してきました。取引先の東京都生協は単品の産直ではなく総合的な産直を地域と展開することにより、その地域の農業を支えていこうという「地域総合産直政策」を1988年に打ち出します。

市場を通さない生協との産直取組みによってJ Aは、市場価値ではなく消費者の声を直接聞いて農畜産物を生産するというやり方に転換してきました。

有機農業のはじまり

有機農業開始の直接のきっかけは、1995年に東京都生協と協議しセット野菜のグリーンボックスを展開したことです。このグリーンボックスに生協では組合員の利用の登録が週4900箱ありました。1箱に6〜7品目の野菜が入り、生産者のメッセージやレシピもセットし届けます。しかし登録数が次のシーズンは3500箱、そして2500箱と減り、こうしたなかで、意識ある消費者が登録してくれているグリーンボ

ックスに、有機の野菜を少しでもセットすることで、組合員の利用を促そうと考えたのです。

私は生産者組織のなかに農法委員会をつくることから始めました。土づくり指導書作成など生産に関する活動もしましたが、多くは私が会議や交流会で得た情報と産直の進め方を生産者と共有することで生産者と職員の考え方の底上げを目指したのです。私は職員です。提議はしても決めることは生産者に委ねました。毎月夜開いた農法委員会の構成メンバーは、30代の若い産直の指導的生産者と職員でした。この農法委員会では有機農業の生産部会の設立を提案し、野菜果物の産直協議会で部会設立の決議をしたあと、JAの広報誌で呼びかけ希望する生産者で有機栽培部会を立ち上げました。

1997年11月、考え方を共有した農法委員会3名の生産者が中心となり、10名たらずの部員数で有機栽培部会を設立し、有機農業の生産が始まりました。そして有機野菜を少しでもセットすることで、生協のグリーンボックスの登録も次のシーズンには3500箱まで回復しました。その後生産者数と生産量が増えることで生協の注文書に単品の有機野菜も載るようにな

り、部会では品目数と販売金額・生産者数も毎年増えていきました。しかし、こうして有機栽培部会が発展できたのは、実は新規参入就農者をJAが育て加えていったからなのです。

研修農場ゆめファームのはじまり

私は、産直関係の会議や交流会等で東京に頻繁に行くようになり、都会の目で自分の農村地域を見る目が養われてきました。何もない田舎が実はとても素晴らしく豊かなところであることを、そして、自分のところでは農業者が減っていく一方で、都会には非農家の若い人たちが真剣に農業を志しているという状況を肌で感じていました。そういう人たちの就農支援をJAでやってみよう、そう考えたのです。

当時JAには養蚕をやめた組合員から借りている桑畑4・5haがあり、桑の木を伐根し大豆と麦をつくり保全していました。この畑を、都会の農業を志す人を受け入れる新規就農研修農場として開設することを考えました。研修農場の名前は「ゆめファーム」。その仕組みは、①研修は有機農業で行なう。②研修期間は2年間とする。③農地とハウス、農業に必要なトラク

タなどの農機具はJAが無料で研修生に提供する。④
研修生は妻帯者に限る。年齢は39歳まで。⑤JAは研
修生に生活費として毎月16万円を給与として支給する
(現在は次世帯人材育成投資資金支給にかえていま
す)。⑥軽トラックは自分で用意する、という内容で
す。夫婦に限定したのは、独身者も就農相談に私のと
ころに来ましたが、やめるのも簡単、しかし結婚をし
て家族がいて農業を志す人は、相当の決心をして来る
だろうと考えたからです。

この研修制度は有機栽培部会を設立した1年後、1
999年4月にスタートしました。今まで思い描いて
いた非農家の人たちへの就農支援を受け入れる有機栽
培部会という枠組みが出来上がったことと、都会の考
え方の違う人が来ても、この部会への参加なら考え方
のギャップもあまりなくやっていけると思ったからで
す。

この研修に毎年1家族が研修をスタートし、1家族
が地域で独立するという形ができ、現在23期生がこの
春(2021年)研修をスタートしました。すでに21
家族が研修を終えて独立し、全国各地の出身者たち
が、ここ八郷地区で就農しています。

有機野菜がJA野菜の3割に

実際の研修は、春スタート時に夏野菜の品目を選定
し苗づくりから始まります。1年目は栽培技術の習得
のために部会から指導担当生産者がつきます。研修生
は毎週木曜日には、指導担当生産者のところに行き作
業をしながら学びます。そして、与えられた農場で同
じように野菜を栽培します。品目の選定もアドバイス
をもらい、自分で決めます。部会全体では30品目ぐら
い、そのなかから年間10品目ぐらいをつくる人が多い
です。販売も取引先のいくつもの生協の共同購入への
販売、業務用への契約販売、スーパーや最終的には出
荷された野菜を全部販売するために市場出荷もありま
す。そのために2001年に有機JAS認証制度がス
タートした時から、反対はしても否定しないで全員が
認証を取得してきました。コンテナ出荷や販売先によ
り段ボール出荷、品目により泥付きもあります。

未合併の小さなJAですが、今ではJAの野菜販売
のうち、有機野菜の販売額が3割を占めるまでになり
ました。平均年齢が一番若く、活気がある部会になっ
ています。ここでは新規就農者が続々と増えているの

です。新規就農者が大勢いて有機農業もJAで取り組んでいるので、有機農業への偏見はありません。むしろ農業者が減っていくなかで新規就農者は好意的に受け止められています。JAの広報誌でもその情報は多く伝えられます。研修生は研修終了後、家と農地を借りて独立します。1ha前後で独立し、その後1・5〜2haぐらいに面積を広げるのが平均的です。独立した研修生たちは、何年かして、半数が自分の家を新築したりしています。「農業で家が建ちました」と報告に来てくれた生産者もいます。彼らは本当に頑張つて農業をし、地域の大事な担い手になっているのです。

朝日里山ファームが加わり

私はJAを57歳で退職し、退職前に現役時に行なっていた農業体験等都市農村交流活動を、立場をかえて継続するためにNPO法人アグリやさとを立ち上げました。そして同時期、朝日小学校の廃校跡を体験型観光施設「朝日里山学校」として石岡市がリニューアルし、その管理運営を任せられ、そこを拠点に活動しています。食体験・農業体験・工芸体験などが事業の柱です。生協組合員と有機栽培部会の生産者が、野菜づく

り体験を通して交流する支援もしてきました。

この事業に2017年、新たに石岡市新規就農研修農場「朝日里山ファーム」の管理運営が加わりました。石岡市からNPO法人アグリやさとが委託を受け、朝日里山学校の周りの遊休農地1・4haを開墾整備しました。収穫した野菜の荷造り調整の作業所も建築し、ゆめファームとまったく同じ仕組みの農場として石岡市が開設したのです。これにより研修農場が2つになり、1年に2家族が新規に研修を開始し、2家族が独立していくようになりました。

朝日里山ファームは3期生が独立し、現在4期生が研修2年目に入り、5期生がこの春研修をスタートしました。ゆめファームはJAが運営していますが、こは石岡市が開設にお金を出しました。NPO法人がパイプハウスや農機具など研修に必要な道具を用意し、JAも農場開設のためNPO法人に一部お金を支援してくれました。その後農地も増やし1・8haになっています。農機具も少しずつ増やし、現在ビニールハウス2棟、ハウス倉庫1棟、トラクタ3台、管理機2台、ハンマーナイフ1台、野菜洗浄機1台など。研修農場も有機JAS認証を取得しています。

朝日里山ファームの仕組みは、①石岡市が農地の小作料や電気水道料金を払い、NPO法人に維持管理のためのお金を拠出し管理運営を委託する。②JA有機栽培部会は研修生に栽培技術と荷造り出荷の研修支援をする。1年間是指導生産者を配置する。また部会員による生活相談の支援など。③NPO法人は農場の管理運営とともに研修生の相談、新しい人の就農相談をする。また農場の通路や土手の草刈りによる農場の保全や空き家調査などをします。三者が協力して新規就農者を育てているのです。

農業による移住者たち

ゆめファームと朝日里山ファーム、この2つの新規就農研修農場により有機栽培部会には現在31名の部会員がいます。その部会員の実に8割強が地元の生産者ではなく新規参入就農者です。毎年2家族増えることから、部会の販売金額も増え続けています。ゆめファーム設置時に今のような姿を目指したわけではありませんが、遊休農地の活用、人口の減少にある地方において移住者の増加（家族も加えるとすでに100名以上）、という状況になっています。

子供の人数が減ってくるなかで、若く小さな子供がいる研修生は小学校の児童数が増えるのにも貢献しています。なかには小学校のPTA会長をする人もいます。この研修からの就農者には脱落者が少ないのが特徴ですが、それは、最初から一戸の農家と同じように自分から進んで能動的に行動しなければ、研修が進まない形にしたことも一因です。作物の選定から自分で考えて決めていかなければなりません。もちろん栽培技術の支援の形や独立に向けた農地の確保、女性同士の交流など、相談の支援はここには全部ありますが。

有機農業と新規就農

JAの有機栽培部会には、なかなか新たに加わる地元の生産者はいません。地元の生産者は経営のスタイルが出来上がっているからです。露地栽培が中心の有機農業は、地元の農家にとって転換が難しい分野です。しかし、新規参入者にとってはハードルが低いのです。有機農業は露地栽培のため他の作物よりは先行投資が少ないからです。若い人はお金を投資する準備金をそれほど持っていません。有機農業はトラクターや管理機や軽トラックなど中古でもスタートできます。

さらに新規参入者は、食べ物の安心安全や環境問題などにも関心が高い人も多く、就農相談会では有機農業に関心がある人の比率は高いのです。全国有数の有機農業の生産者が多いここ八郷地区では、JA外の有機農業生産者も含めると、全体では4分の3以上は新規参入者が占めています。有機農業の取組みは野菜では、この地区と同じように全国的にも4分の3は新規参入生産者が占めているのではないかと思われれます。

国が有機農業を増やすとすれば、新規参入者をどう位置づけるかがポイントと考えます。国がみどり戦略により有機の面積を100万haにしようとするならば、既存の生産者の有機農業への転換が必要なのはもちろんのこと、JAやさとが取り組んできたように、全国のJAが有機農業に取り組まなければ目標は達成できません。国が進めるみどり戦略を受け止め、JA内で有機農業に関心のある生産者をつくることから始めなければ広がりは出てきません。

有機農業で地域を元気に

有機農業の推進は生産者だけの取組みではありません。取引先の一つである、よつ葉生協の会長は「私た

ちが組合員に有機野菜を届けられるのは、JAやさと有機栽培部会があるからです」といつも交流の中で話してくれます。有機農産物を買えば生産者を応援してくれる消費者があつてこそ有機農業経営は成り立つのです。もちろん産直等直接の販売ばかりではなく、一般流通でも消費者がその価値を納得して買い求める社会に転換していかなければならないと思います。

新たな国の政策により、国民の有機農業への支持と理解、有機農産物を買いたい求めるという行動を国が進めていかなければ有機農業は拡大していかないでしょう。もう一つには、地方への移住を進め、過疎化・衰退していく日本の農村・地域を、環境も意識し、もっと大切にしていかなければとも思います。有機農業は農産物の売り買いの話としてではなく、特に地方の地域づくりと関係性を持たせ、地方を元気にしていく方策と位置づけることも大切なのではないのでしょうか。

しばやま・すすむ NPO法人アグリやさと代表。JAやさと職員として、生協産直をきっかけに、有機栽培部会の立ち上げと新規就農者の研修体制づくりに尽力。現在は生協組合員や首都圏の子供たちの農業体験の受け入れを担う。

支 出 伝 票

整理番号

2

会 派 名

会派一心

支出項目

- 調査研究費 研修費 広報費
 公聴費 要請・陳情活動費 会議費
 資料作成費 資料購入費 人件費
 事務所費

実施年月日

令和5年 4月23日
~5月3日

支出年月日

令和5年 4月23日
5月29日

支出金額

47,905 円

按分率

50/100

按分後の額

23,952 円

支出先

プリント社(株) 地&カパ

使途内容

印刷代

備 考

領収書

領 収 証

No. _____

会派一心様

5年 5月 1日

★

¥660-

但 433代200枚として

上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)



読売センター 船岡

所長 阿部友和

〒989-1607 宮城県柴田郡柴田町船岡字新栄3-3-2
TEL 0224(54)2040 FAX 0224(54)2730

T 6370101002051

※領収
くた

して

領 収 書

2023年4月23日

会派 一心様

¥22,160-

(消費税込み)

但し：印刷物として（注文番号:20230423-180）

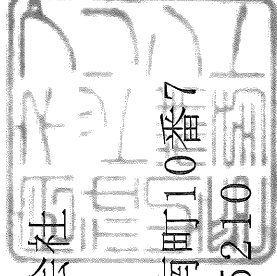
クレジット利用

プリントネット株式会社

〒892-0835

鹿児島県鹿児島市城南町10番7

TEL: 050-3539-5210



領収書

No. 001022

会派一心会報 様

5年4月29日

金額	¥	1	8	9	7	5
但 折込手数料 17250 円・消費税 1725 円						
上記正に領収いたしました (10%)						

収入印紙

折込日	4/30 入れ
枚数	5750 枚
備考	

(有)河北新報角田専売所
 角田市角田字泉町 137-2
 電話 (0224) 63-3154
 FAX (0224) 62-0951

領収証

会派一心 様 No. _____

★ 但 折込代 130枚 5/3 入
 5年5月1日 上記正に領収いたしました

内訳	税率	金額(税抜・税込)
	%	消費税額等
	税率	金額(税抜・税込)
	%	消費税額等

〒989-1604 宮城県柴田郡柴田町船岡東二丁目12-3
河北新報船岡販売所
 所長 千葉 和雄
 TEL 0224-54-2218

収入印紙
 コクヨ ウケ-1097

領収証

会派一心 様 No. _____

★ 但 折込代として 1000枚
 2023年4月29日 上記正に領収いたしました

内訳	
現金	
小切手	/
手形	/
消費税額等(%)	

読売センター角田
 所長 岡部 崇哉

〒981-1505 宮城県角田市角田字旭町30-14
 TEL 0224(62)3434 FAX 0224(62)0866

コクヨ ウケ-98

領 収 証

No. _____

会派一心様

R5年5月1日

★ ¥ 330

但 100枚広告代
上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額 (%)
税抜金額
消費税額 (%)

読売センター 巨理山元
所長 阿部友和
〒989-2351 宮城県巨理郡巨理町字中町45-5
TEL 0223(34)6802 FAX 0223(34)9022
登録番号 T6370101002051

6R1220

No. 5918

領 収 書

令和5年5月1日

会派一心様

金 額	千	百	十	万	千	百	十	円	受領者印
				3	1	3	2	0	

金種	現金	小切手	折込日	5月2日付
摘要	規格	A4	判	300枚
	折込料 単価	4	円	1,200円
	消費税	10	%	120円

河北新報 槻木販売所
有限会社 小笠原新聞店

〒989-1753
柴田郡柴田町槻木上町2丁目8-16
TEL 0224-56-2892
FAX 0224-56-4498
登録番号 T3370102000123

上記の金額正に領収いたしました

※受領印のないもの、金額を訂正したもの、複写記入でないものは無効です

新聞折込広告の免責について

- 以下の事由を起因とした折込日の変更並びに中止につきましては、その責任を免除とさせていただきます。
〔災害および感染症の発生・その他不測の事態〕
- 一旦受け付けた「新聞折込広告」につきましても、右記の基準、または法に抵触する場合には折込できない場合があります。その場合についても、責任を免除とさせていただきます。

下記の広告は折込できません。

- 責任の所在および内容のはっきりしないもの。
- 虚偽または内容が不明確で誤認されるおそれがあるもの。
- 公序良俗に反するおそれがあるもの。
- 政治問題について極端な主義主張を述べたもの。
- 関係諸法規に違反するおそれがあるもの。
- 新聞公正競争規約に抵触するもの。
- 名誉・プライバシーなどを損なう広告。

領 収 証

No. _____

会派一ハ 様

2023 年 5 月 1 日

★ ￥ 495 -

但 5/2 入折込料とい

上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等 (%)

宮城県柴田郡大河原町字幸町8番地の2
有限会社 横山新聞店
代表取締役 横山 久利
電話 (0224) 53-1740

領 収 証

No. _____

会派一心 様

5 年 5 月 1 日

★ 165

但 折込料 50 枚 5 月 2 日入

上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等 (%)

読売センター 大河原

所長 長谷川 壺

〒989-1214 柴田郡大河原町字甲子町4-249
TEL 0224(52)1341 FAX 0224(52)5931

広報・公聴活動実施報告書

令和5年5月3日

角田市議会議長

殿

会派名 会派一心
代表者 菊地利衛
(又は実施代表議員名)

下記のとおり実施したので報告します。

広報公聴活動 の名称	会派広報誌の作成・印刷及び配布
開催日時・配付 日・掲載期間	令和5年4月23日(日)～令和5年5月3日(水) 午前・午後 時 分 ～ 午前・午後 時 分
開催場所・掲載 場所・配付場所	新聞折り返し(角田市内)
参加議員名 (派広報誌配付 ・ホームページ 作成委託の場 合は未記入)	菊地利衛・星隆悦 平村真幸夫・小塚毅
参加者 配付部数	8,000人・(部)
報告会・広報活 動の概要	別紙

※当該活動に係る案内、要領等を添付してください。

※会派広報誌作成の場合は、作成した広報誌原本若しくはコピーを添付してください。

木々の葉はいつもより早く芽吹き、すでに初夏を思わせる気候だと感じている方も多いのではないのでしょうか。また、新型コロナウイルス感染症も、5月には季節性インフルエンザと同じ扱いになるなど、少しずつやすらぎのある生活を取り戻しつつあります。それとは裏腹に、ロシアのウクライナ侵攻などに起因する物価高騰は、私たちの暮らしに大きな打撃を与え続けています。



特に電気料や各種食品など生活必需品の高騰には、驚きを隠せません。また、肥料や飼料など農業資材や骨材などの高騰は、事業経営の危機すら招いています。そんな中、まもなく田植えも始まり、みどり一面の角田らしい風景に癒やされたいと思っています。

2月議会 令和5年度の予算議決 (第420回定例会 2/10~3/15)

令和5年度予算に関し、特に注目したい施策は、以下の2点です。

① 子育て支援の拡充

- 1) 第2子以降の出産祝い金が2万円から5万円に増額になります。(第1子は引き続き2万円)
- 2) 第2子以降の保育料が完全無償化になります。
- 3) 第2子以降の小学校、中学校の学校給食費が、無償化になります。
- 4) 小学校入学祝い子育て応援券が一律3万円支給されます。



⇒子育て支援の強化は、必要不可欠であり、この内容では、まだまだ不十分です。今以上に充実させた子育て環境を整え、それを実現するよう取り組んでまいります。

② 主要施設を循環するバスの運行 <以下の特定日に、1日4便、角田市内主要施設を循環運行>

- 1) 阿武隈急行フリー乗車券発売日である毎月第一日曜日
- 2) 市内の各種イベント開催日

⇒市外から来るお客様の足を確保するのも大切かもしれませんが、市民の普段の生活の足を確保するのがもっと重要です。中核病院への路線等、さらに検討すべきです。



茨城県石岡市の「JA 研修農場ゆめファーム」「NPO 朝日里山ファーム」に視察に行ってきました。

～ 就農支援体制と有機農業への取り組み ～

平成29年に石岡市が、廃校になった小学校と周りの遊休農地1.4haを活用して、「朝日里山ファーム」が、設立されました。

有機野菜生産者の新規就農希望者を求め、平成11年に「JA やさと」により有機農業研修制度「ゆめファーム」が設立され、その拡張版であります。共に1年に1家族の研修生を受け入れ、2年間の有機農業研修を受講したのち独立し、石岡市内で就農するシステムになっています。研修するための圃場、機械類や作業所などは完備され、国・県の補助事業を活用して生活費等の支援もしています。研修中の指導や販売は



長年取り組まれてきた
柴山様からの講習、の後の懇談



独立営農されたご夫婦。
子育てしつつご自宅の新築。
消防団等忙しいとのこと。

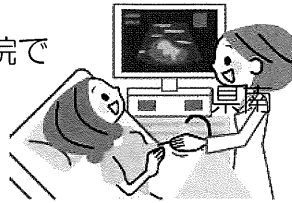
「JA やさと有機栽培部会」がサポートし、独立後も栽培や販売などについて全面的に支援しています。全国各地から毎年、研修生の応募があり、今まで「ゆめファーム」「朝日里山ファーム」から約30家族が独立して営農しています。現在、「JA やさと」の有機栽培部会は部会員33名で販売金額1億8千万円が実現されています。「販売先を確保し、その前提で就労者を募集し育成する」という点が、成功の原点かと思えます。「JA やさと」は、令和4年に「日本農業賞」の「大賞」を受賞しています。角田市の就農支援体制と資源循環型農業の推進を今後どのようにすべきか、お手本を見せられたようでした。

産科・小児科病院誘致の要請

【菊地利衛】産科・小児科病院誘致を最優先課題で取り組むよう以下3点を提案・要請しました。

①産科オープンシステム

市内に設けた産科・小児科病院で妊婦健診等を行い、分娩等は中核病院で行うことなど。



②病院誘致の際の優遇策

病院の建設費や土地取得費の一部支援など思い切った優遇策を講じる。(建設費や土地取得費の一部を財政支援している自治体が既にあります。)

③近隣自治体との共同での誘致活動

近隣市町、特に境遇が同じ丸森町と共同で誘致活動をするよう提案。

産科・小児科病院は必要不可欠な施設です。優先順位を最上位に位置づけ、財政負担も覚悟で取り組むよう要請しました。

早期誘致が実現するよう活動していきます。



菊地利衛 角田市花島字三森138
090-7326-5525
e-mail sanmori138138@gmail.com
FAX 0224-68-3020

阿武隈急行存続について

【星 隆悦】赤字経営が続く「阿武急」の抜本的経営改善に向け、「在り方検討会」が発足し、「上下分離方式」を含む経営方式の変更などを議論することになりました。そもそも「東北本線」は、今の阿武急路線を計画していましたが、先人が「桑の葉が枯れる」という理由で反対し、頓挫した事になっています。しかしかつて河北新報安西支局長の「丸森線夜話」によれば、伊具地方は養蚕の不況期を迎え、経済的に苦しい時期であり、先人達をあまり責められないとも思います。その後、丸森線の全線開通、第三セクター鉄道「阿武急」へ移行しました。子孫の為にも、なんとかして存続させなければならないと思います。



“乗って残そう阿武隈急行！”



星 隆悦 角田市角田字大町39-8
080-8214-3571
e-mail aifgs619@yahoo.co.jp
FAX 0224-62-1307

資源循環型農業で安心な食料供給を

【戸村眞喜夫】1月に開催された、まちづくり懇談会の中で、子供たちの未来のためにも、安心して老後を過ごせるような高齢化社会を作るべきだとの意見が出ていました。まったくその通りだと思います。その安心とは何かと考えると、私は角田にいれば、安心で安全な食料が

いつでも手に入り、老若男女、誰もが健やかに生活でき、飢える心配がないことだと思います。

その実現には、地域内

の食料自給率を上げ、

販売農家も自給農家も市民農園も有機農業を中心とした資源循環型農業で生産するシステムを早期に確立すべきだと考えます。



戸村眞喜夫 角田市島田字郷主内86
090-4553-8133
e-mail bluesrock9984@gmail.com
FAX 0224-62-0071

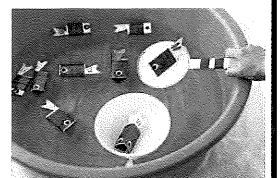
以前の日に、楽しみながら戻りませう

【小湊 毅】コロナ禍の日々で制限だらけでした。ようやく以前の日常に戻れると思います。気を付ける点は気を付けて、外出し、親戚・友人・ご近所様と、お会いして、お話しして、あれやこれやして楽しく過ごして頂きたいと思います。

その際にご近所さんなどのお集まりの際に、おまけでちょっと楽しい事、ゲームなり体操なり、いろいろあればさらに楽しいのではないかと思います。

指導やアドバイスなど、市の生涯学習課や総合体育館、ウェルパークの包括支援センターや健康長寿課にお話し頂けるといろいろ教えてもらえます。もうすでに活用されている団体さんも多くいらっしゃいます。

いろいろな方々と楽しく過ごす為に、少しでも、新たなお楽しみを取り入れるのもいいのではないかと考えています。



小湊 毅 角田市笠島字竹ノ内6-1
090-5559-3730
e-mail kominatotakeshi1234@gmail.com
FAX 0224-65-2393

市政全般について、皆様のご意見頂けますと幸いです。会派一心としてしっかり活動してまいります。